

## 第2回地域医療ネットワークの会

平成19年11月「顔の見える地域連携」を目指し、お互いに情報交換できる場として、「地域医療ネットワークの会」をたちあげ、第1回目を皆様のおかげで盛況に会を行うことが出来ました。そして、今回平成20年2月15日第2回目を開催いたしました。

### テーマ

- ・ 在宅医療での看取り：西川内科・胃腸科 西川 真人先生  
～過去に在宅診療をしたケースの疾患や在宅医療サポート体制、在宅療養支援診療所の機能～
- ・ 地域医療連携について：聖マリアンナ医科大学病院 消化器・一般外科医師 四万村 司  
～消化器外科の悪性疾患患者に対する緩和チームの取り組みと、在宅医療移行にむけて地域医療連携の必要性について～



今回は12施設44名の方が参加してくださいました。



### ディスカッションでは

退院後の自宅での生活の状況など、地域医療機関や訪問看護から実状が話されていました。当初病院での看取りを希望されていたのですが、自宅で看取りをすることになったケースに対し、訪問診療医から家族に行った支援について話されました。状態変化の際は、著しい動揺があったこと。入院してできることと自宅でできることに差異はないことなど説明し、家族も受け入れができた、自宅看取りができたことを喜んでおられました。

病棟看護師からは、入院で疼痛コントロールができていても、同様の方法が、自宅では実施できないこともあり困ったことがあったという意見があり、当院の薬剤師からも、入院中だけでなく退院後に訪問看護と連携し、ドーズアップしたことなど情報がありました。

在宅診療でも訪問看護でも初回の訪問で、家族の不安な気持ちを聞き不明なことを解決していくことが、大切であると感じているという意見がありました。

当院医師は、在宅診療をした際家族の介護負担の大きさを感じていると話がありました。訪問看護からは、病棟看護師にも自宅で療養する方の様子を見てほしい表情が違う、その人らしく過ごしているという意見があり、地域医療関係者同士で有意義な意見・情報交換をすることができました。

